

4

今後の検討課題

以下の案件については、今回のガイドライン作成過程において議論したが収束できなかったためか、取り上げたが十分な検討、議論を行う時間がなかったため、次回改訂の際に再度検討することとした。「用語の定義」「背景知識」では、用語の統一に関する議論が不十分であった。関係学会と協力したうえで用語の整理を行う必要がある。「推奨」では、エビデンスが不十分であったため詳細かつ具体的な記載ができなかった項目があった。今後、この領域の臨床研究を推進する必要がある。「関連する特定の病態の治療と非薬物療法」では、適切な臨床疑問を作成し、系統的文献検索を行い、推奨度とエビデンスレベルを決定し、治療の推奨を呈示することができなかった。これらはすべて今後の改訂で再度検討する必要がある。

1 今回のガイドラインでは、対応しなかったこと

- ダイジェスト版など、より簡便な普及のためのツールを作成すること
- 悪性胸水、咳嗽、死前喘鳴の推奨を明確に記載すること
- 呼吸困難に対する個々の薬剤の具体的な使用方法をエビデンスに基づいて詳細に記載すること

2 用語の定義、背景知識

- 「呼吸困難」と「呼吸困難感」の区別について詳細に検討すること
- 「呼吸不全」の臨床的な定義について明確にすること
- 意識障害や認知機能障害のあるがん患者の呼吸困難の評価方法について記載すること
- 呼吸困難に対する抗不安薬の具体的な投与方法について記載すること
- 呼吸リハビリテーション、呼吸理学療法、肺理学療法、胸部理学療法の区別について詳細に検討すること

3 今後の検討や、新たな研究の必要なこと

- 酸素吸入が、どのような病態のがん患者の呼吸困難を緩和させるか検討すること
- 呼吸困難があるがん患者に対する、酸素吸入の具体的な方法について記載すること
- 意識障害や認知機能障害のあるがん患者に対する、酸素吸入や、モルヒネの効果と安全性を検討すること
- モルヒネの全身投与が、どのような病態のがん患者の呼吸困難を緩和させるか検討すること
- 呼吸困難があるがん患者に対する、オピオイドの具体的な投与方法について検討すること
- モルヒネの吸入投与が、がん患者の呼吸困難を緩和させるか、させるとしたらどのような病態のがん患者に有効かを詳細に検討すること
- コデインの全身投与が、がん患者の呼吸困難を緩和させるか、させるとしたらどのような病態のがん患者に有効かを検討すること
- オキシコドン、フェンタニルの全身投与が、がん患者の呼吸困難を緩和させるか検討すること
- オピオイドの臨時追加投与（レスキュー・ドーズ）が、がん患者の呼吸困難を緩

和させるか検討すること

- 呼吸困難があるがん患者に対する、オピオイドの具体的な臨時追加投与（レスキュー・ドーズ）の方法について記載すること
- コルチコステロイドの全身投与が、がん患者の呼吸困難を緩和させるか検討すること
- 呼吸困難があるがん患者に対する、具体的なコルチコステロイドの投与方法について記載すること
- コルチコステロイドの全身投与が、どのような病態のがん患者の呼吸困難を緩和させるか検討すること
- 呼吸困難があるがん患者に対する、ベンゾジアゼピン系薬の全身投与の安全性について検討すること
- ベンゾジアゼピン系薬の全身投与が、どのような病態のがん患者の呼吸困難を緩和させるか検討すること
- 呼吸困難に対する非薬物療法の分類を詳細に検討すること
- 呼吸困難に対する非薬物療法（看護ケア，呼吸リハビリテーション，精神療法，リラクセーション，補完代替医療）の臨床研究を検討すること
- 呼吸困難に対する非薬物療法のうち，呼吸リハビリテーションと看護ケア，精神療法，リラクセーション，補完代替医療の区別を詳細に検討すること

（新城拓也）